

HSC016-10

会場: 101

時間: 5月23日11:30-11:45

東京首都圏の急速な都市化による気候変化

Climatic changes due to the rapid urbanization in Tokyo metropolis

三上 岳彦^{1*}

Takehiko Mikami^{1*}

¹帝京大学

¹Teikyo University

近年、都市の温暖化（ヒートアイランド）に対する一般の関心が高まっている。ロンドンなど欧米の諸都市では、すでに19世紀後半に都市の温暖化が認識されていた。注目すべきことに、旧東京市においても、戦前の1939年冬季の早朝に市の中心部と郊外（当時）で5度の気温差が観測されたことがある。戦後、東京では欧米諸都市に比べて遙かに急速な温暖化が進んだが、その背景には、戦後の急激な人口増加にともなう人工排熱の増加や欧米諸都市との都市構造（都市の建築物、表面材質など）の違いがあると考えられる。人工排熱に関しては、都心部の年間平均熱消費量が24ワットと、東京域で受け取る年間平均日射量の約20パーセントに相当することからもその程度がわかる。

環境省の報告書によれば、過去20年間に東京都内の真夏日（日最高気温30度以上の日）の日数は3倍も増加しており、夏期の熱中症患者数も増加傾向にある。都市における健康な生活を維持するためにも、都市気候研究と適切なヒートアイランド緩和対策の進展が望まれる。

キーワード: 東京首都圏, ヒートアイランド, 地球温暖化, 人工排熱

Keywords: Tokyo metropolis, Urban heat island, global warming, anthropogenic energy consumption